

Layered and Blended Place Planning

異種同位による新たな場づくりの試み

(アウトドア×アートの場づくり)

1 着想

何か異なるもの、お互いに関係なさそうなものを重ねてみると、意外に面白いものが出来ることがあります。地域づくりの分野でも、例えば「自然+ロック=野外音楽フェス」と言うように、一見、関係がなさそうな2つの要素をレイヤーのように重ね合わせると、思いがけない空間や時間、そして楽しみ、更には新しい文化までも生み出され、全国、全世界に広がった例もあります。

このように、異なる空間要素をレイヤーのように重ねてみると、面白い、新しい空間が生み出されるかもしれません。

2 最近の地域づくりのキーワードから考える

ここ数年のまちづくり、地域づくりのキーワードでは、移住、スタートアップ、食（カフェ、名産品など）、リノベーション、ブランディング、農業、健康、スポーツ、アウトドア、文化（アート、工芸など）、などが挙げられます。既に、これらを組合せて、大小様々な施策・企画として、地域づくりに取り組んでおられる方々も少なくないでしょう。

この基本的とも言える手法を、改めて、地域の空間づくりに試用してみたいと思います。

3 着眼点：新しいアウトドアの過ごし方

時代の事変もあって、昨今はキャンプ場に行く人、アウトドアを楽しむ人が増えていると言われています。かく言う私も、時代に乗り遅れないよう、テントや寝袋を準備し、キャンプを試してみました。しかし、どうもしっくりこない。何がしっくりこないのか。

時間はあるが、やる事が無い、いや分からない、のです。焚火をして、料理をして、木漏れ日の下で昼寝して、星空を眺め、と言うは簡単で、かつ、やるのもさほど難しくない。

そうすると結構、時間が余る。自然の中で、ゆったりとした時間を過ごす、それだけで十分かもしれませんが、何か、自然とキャンパーをつなぐものが欲しい、そう感じました。

食べ物に例えるなら、うどんだけでは物足りない。何かアクセントが欲しい。そこにスパイスの効いたカレーかけると、カレーうどんという新しいメニューが生まれる。このように、何かを重ね合わせることで、キャンプに新たな可能性を引き出せないか、そう思いました。

その一つにアートはどうか？ 静かな自然の中で、リラックスしてアートを眺める。同行者との会話の材料にもなるし、あれこれ感じ入ったり、何かを考えるきっかけにもなる。ここに「アウトドアート」の空間づくりを提案したいと思います。

ただし、お互いにお互いを受け入れる調整、即ちブレンド（コーディネート）が必要になります。うどんはカレーを受け入れるために麺を柔らかかに、カレーはうどんがショックを起こさぬよう出汁を加えてマイルドに。この異種をブレンドすることが、提案のポイントになります。

4 提案（自然の中のアートスペース）

キャンプ場のような自然の中であっても、やはりアートを鑑賞する場所または空間や設備が必要になりますが、うどんとカレーの関係のように、キャンプ場はアートを受け入れるための素地づくりが必要、アートはキャンプ場に溶け込むための柔軟さが必要となります。そこで、その両者を仲良くつなぐために、小さな空間装置をデザインしてみました。うどんとカレー、もとい、キャンプ場とアートをつなぐためのアダプターのような装置。キャンプ場で一人用の休憩所として使え、また大自然の中にある小さな展示室としても使える、また設置においては自然へのインパクトを極小に押さえ、かつ配置のアレンジ次第では、キャンプ場に新たな空間的スパイスをもたらす。人工的に作った温度や湿度で管理された美術館ではない、解放された自然の中のアートスペース。



<キャンプ場の中に出現する「美術館」のイメージ>

5 運用方法について

高価な絵画や書など、風雨に耐えられないアートを展示することは出来ませんが、風雨にさらされても大きな影響のないアート（彫刻や陶磁器、ガラスなど）や、風雨に晒され変化して行くことを前提とするアート（木工、テキスタイルなど）を展示することを想定します。作品収集については、地域の学校や市民クラブとの連携を想定し、インドアであるアートの人たちを、大自然に誘うきっかけにもなれば、新たなライフスタイルや地域文化の一つになるかもしれません。

6 最後に

自然とアートを繋ぐ試みや事例は、地方での小規模美術館の出現やアーティストインレジデンス、大自然の中でのアートフェスなど、これまでも各地で実施されています。今回の提案は、そのカテゴリーの中の一つかもしれません。

しかし、日本各地にキャンプ場が数多くある中、施設の維持管理や新たな集客など、事業継続に課題を抱えているのが実情かと思います。中には民間企業との協働・協業を試みるケースも出てきておりますが、決定的な解決策には至らないケースも少なくないでしょう。

その中で、今回の提案は、コスト、維持管理、参加方法など、実現のためのハードルは比較的低いと思います。もちろん、具体的な仕組みづくりには、自治体や地域の団体、学校、企業などの協力が必要ですし、そこをコーディネートする人材と資金も必要になるでしょう。ただ、一発アイデアでは、地域づくりの課題を解くのは難しい。そこには幾つかのフェーズを設定し、時間をかけ、参加のきっかけづくりと、継続する仕組みづくりが不可欠です。そのファーストステップとして、今回の小さな、かつユニークな試みは、地域に新たな、かつ緩やかな変化のきっかけをもたらすことが出来るかもしれません。

カレーうどんのように「美味しく」いくことを期待します。